

## 茂木大臣ぶら下がり結果概要

日時：平成29年9月13日（水）15：20～15：25

場所：内閣府

（茂木大臣）

今月の後半にあるTPP11の首席交渉官会議、これも日本で予定されております。これとも関連してメキシコの経済大臣、それからASEAN4か国の大使と、さらにはハガティ米国駐日大使と会談を行わせていただいたところであります。

まずはグアハルド大臣、メキシコであります。今日9時半から約30分の電話会談を行ったところであります。11月にベトナムで予定をされているAPECの首脳会合、TPP11についていい結果を出したいということで、それに向けて日本とメキシコはさらに協力していこうということで一応みたところであります。

あと、お昼には昼食をはさみながらシンガポール、ベトナム、ブルネイ、マレーシアの大使等と会談をさせていただきました。まさに首席交渉官会議が間近に迫っている中で率直な意見交換を行わせていただきましたし、またそれぞれの大使を通じて各国での国内調整、さらには作業を急いでもらうということになりました。TPPのハイスタンダード、これを維持しながらスピード感をもって協議を進め、APECにおいていい結果を出したいということで認識をASEAN4か国の大使と協議をしたところであります。

そして、ハガティ米国大使は14時半から着任の表敬を受けるということであります。冒頭ご覧いただいたように、北朝鮮情勢等々が緊迫する中で、日米の同盟関係、さらに進化させていきたい、同時に日本とアメリカ、世界の中でも、世界経済の中でも主要なプレイヤーの2か国が新しい21世紀型の共通のルールを作っていくということで協力をしたい、またTPP11に対する我が国の立場を大使に申し上げ、これについて理解を得たと思っております。

（記者）

ハガティ大使との話の中で、先ほど出られる時にお話を聞いた時に、二国間での貿易の話についても話が出たと伺いましたが、その様な話もされたのでしょうか。

（茂木大臣）

日本とアメリカの間は現在、日米経済対話、こういう枠組みに沿って協議を進めるということになっておりまして、これは単に通商の問題だけではなく、二国間にとどまらないルールの問題、さらにはエネルギー分野であったり、またインフラの投資、こういった分野において日米でWIN-WINな関係を作っていく、このための協議の枠組みであると理解しておりまして、そういった協議をしっかりと進めていくために協力をしたいと話合いました。

（記者）

TPPについて、日本政府は米国に復帰を求める立場だと思っておりますが、今日の会談の中でも、将来の復帰を要請されましたか。

（茂木大臣）

TPPにつきましては、アメリカが離脱を表明した。この事については、非常に残念に思っているが、TPP11をしっかりまとめていきたい。同時に、今アメリカは技術的にも最も進んだ国でありますし、さらには、経済は最もグローバル化している国でありまし

てこういった21世紀型の新しい枠組みを作っていくことは、アメリカの経済にも雇用にもプラスをもたらす、こういった話を述べさせていただきました。

(記者)

それに対して、アメリカ側からはどのような反応がありましたか。

(茂木大臣)

この一つの新しい21世紀型のルール作りをしていくということについては、理解してもらえていると思っています。また、今、日本が主導してTPP11を進めている。このことについても、アメリカとして十分理解していると、この様に話をしておりました。

(記者)

ベトナムですが、今日も大使が来られていましたが、APECのホスト国として非常に、大筋合意に向けては、果たす役割が大きいと思いますが、今月後半の東京会合も含めまして、ベトナムにどのような役割を期待しておられますか。

(茂木大臣)

ホスト国でありますので、ベトナムの役割は非常に重要になってくると考えております。そういった中で、これはベトナムに限らず、各国、国内事情をそれぞれ抱えておりますが、ハイスタダードなTPPを作っていく、そして、このモメンタムをしっかりと維持し、結束を保って11月にいい結果を出す。このことが必要である。このことは、ベトナムを含めて認識が一致していると考えております。

以上